

# 誰もが、 ケアしケアされる時代を どう生きるか

日時 2022年**11月30日** (水) 13:00

～2023年**1月31日** (火) 17:00

開催方法 **オンラインによる開催 (動画配信)**

※上記期間内であれば、いつでも配信動画を複数回視聴可能です。

対象 **福祉・保健・医療・教育・行政関係者、地域福祉に関心のある県民 (一般・学生) 等**

受講料 **【一般】2,000円 【学生】無料**

※学生とは、大学(院)、短期大学、高等専門学校、専修学校の学生で、社会人を除く。高校生以下は無料

## 講義1 ケアラー・ヤングケアラーの現状と支援 ～ケアラーの語りを踏まえて～

講師：(一社) 日本ケアラー連盟 代表理事 **堀越 栄子** (埼玉県)

「ケアラー」とは、心や体に不調のある人への「介護」「看護」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者・友人を無償でケアする人たちのことをいいます。また、大人に代わり大人が担うようなケア責任を引き受け、日常的に家事や家族の世話を行なっている子どもを「ヤングケアラー」といい、その実態や支援のあり方が注目されています。日本ケアラー連盟の創設(2010年)に関わり、全国2万世帯のケアラー実態調査や自治体におけるヤングケアラー実態調査に基づく政策提言のほか、自治体職員や専門職、市民団体への研修支援など、ケアラー・ヤングケアラー支援に関わってきた実践から、これからのケア政策、ケアラー支援、共生社会の視点を学びます。

## 講義2 ごちゃまぜによるまちづくり ～福祉が核になる地域共生～

講師：(社福) 佛子園 Share 金沢 施設長 **清水 愛美** (石川県)

石川県金沢市の郊外にある「Share 金沢」には、障害児施設、サービス付き高齢者住宅、学生向け住宅が立ち並び、約90人が暮らしています。また、敷地内に天然温泉や蕎麦処、カフェバー、タイ式マッサージ店などもあり、多くの地域住民が出入りするなど、これまでの地域活性化とは異なる発想で、生涯活躍のまち構想を推進しています。

「年齢や障害の有無に関係なく、多様な人たちがごちゃまぜで交流することで、誰もが役割を持ち、元気になり、地域が活気づく」まちづくりをめざす実践から、人生100年時代の地域共生社会のあり方について学びます。

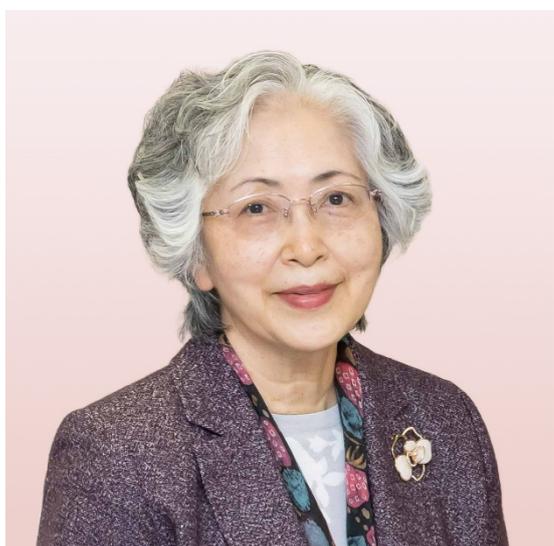
**申込期限** 2022年11月7日(月)

**申込方法** インターネットによる申込のみとなります。申込期限までに専用申込フォーム(Google フォーム)から申し込むとともに、受講料を指定口座に振り込んでください。詳細は、県社協 社会福祉研修センターHPの「お知らせ(その他)」→「夏季大学」ページで開催要綱等をご確認ください。

**問合せ先** (社福) 広島県社会福祉協議会 社会福祉研修センター(担当:小田・仁志田)  
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2  
TEL.082-254-3460

## 講師プロフィール

### 堀越 栄子 (一社) 日本ケアラー連盟 代表理事 (埼玉県)



1951年生まれ。さいたま市在住。日本女子大学家政学部家政経済学科卒業。現在、日本女子大学名誉教授、日本ケアラー連盟代表理事。地元で、「自分たちのまちは自分たちの手で」と、1980年代から「おおみや・市民の会」の活動に加わる。1997年に現在の「認定NPO法人さいたまNPOセンター」の設立に参加。

2010年から日本ケアラー連盟の創設に関わり、以来、全国2万世帯のケアラー実態調査や自治体におけるヤングケアラー実態調査、政策提言、自治体職員や専門職、市民団体等へのケアラー・ヤングケアラー支援研修を担っている。

自治体の高齢者福祉サービスや介護保険、公共サービスに関わる委員会の委員等をつとめ、生活と社会をつなぐ実践をしている。とくにケアラー支援や市民活動支援、自治などの市民生活の基盤に関わる課題を市民自身の手で社会的に解決するための活動を大事にしている。

著書(共編著・分担執筆)

『福祉環境と生活経営』『市民生活と自治体責任』『暮らしをつくりかえる生活経営力』『ふれあいの医療ガイド』『総合介護条例のつくり方』等多数。

### 清水 愛美 (社福) 佛子園 Share 金沢 施設長 (石川県)

1972年石川県羽咋市生まれ。金沢市在住。金沢大学教育学部養護学校教員養成課程卒業。大学卒業後、社会福祉法人佛子園に支援員として入職、2008年に施設長、2010年に法人理事となり、2017年よりShare 金沢施設長を務める。

法人内では主に人財育成や研修などを担当。多様性や地域のつながりなどが叫ばれる今こそ、ごちゃまぜの取り組みには意味があり、多様な人たちが受け入れられる人や地域の寛容さを高めることが必要だと思っている。そのためにはやはり、個と個が知り合うことが肝要かと考え、日々実践している。

